

回答ID： -

回答1：ご回答者様に関して

この調査票にご回答頂いた方について記入して下さい。

認知症やその疑いがあり、徘徊などで警察に行方不明者届が出された人（行方不明者）を「ご本人様」と表記しています（以下、同様）

A. 調査票のご記入にご協力頂いた方を教えて下さい。	
問1；本調査票記入に際して協力をうけた方（複数回答可）	1. ご本人様
	2. ご家族様（続柄 <input type="text"/> ）
	3. ケアマネージャー様
	4. 地域包括支援センター様（地域によっては独自の名称で呼ばれています）
	5. その他（自由記載） <input type="text"/>
	6. 自治体のみで記入した

回答2：ご本人に関して

ご本人様について記入して下さい

B. ご本人様の基本情報に関して可能な限り把握して記入して下さい。（行方不明が複数回ある場合には最後の回に関して記載してください）						
問2；行方不明時の年齢	不明の場合は推定でお答え下さい（歳）	1. 65未満	2. 65～69	3. 70～74	4. 75～79	
		5. 80～84	6. 85～89	7. 90～94	8. 95以上	
問3；性別		1. 男	2. 女			
問4；行方不明時の体型	おおよそで結構です	身長： <input type="text"/> cm、体重 <input type="text"/> kg				
問5；行方不明になる前に体重の変化がありましたか	分かる範囲で結構です	1. あり	<input type="text"/> kg	i. 増 ii. 減		
		2. なし				
		3. わからない				
問6；行方不明となる直前の生活状況を教えてください	a. 食事	1. 自立、自助具などの装着可、標準的時間内に食べ終える				
		2. 部分介助（たとえば、おかずを切って細かくしてもらう）				
		3. 全介助				
		4. わからない				
	b. 車椅子からベッドへの移動	1. 自立、ブレーキ、フットレストの操作も含む				
		2. 軽度の部分介助または監視を要する				
		3. 座ることは可能であるがほぼ全介助				
		4. 全介助または不可能				
		5. わからない				

回答ID: -

	c. 整容	1. 自立（洗面、整髪、歯磨き、ひげ剃り）
		2. 部分介助または不可能
		3. わからない
	d. トイレ動作	1. 自立（衣服の操作、後始末を含む、ポータブル便器などを使用している場合はその洗浄も含む）
		2. 部分介助、体を支える、衣服、後始末に介助を要する
		3. 全介助または不可能
		4. わからない
	e. 入浴	1. 自立
		2. 部分介助または不可能
		3. わからない
	f. 歩行	1. 45メートル以上の歩行、補装具（車椅子、歩行器は除く）の使用の有無は問わず
		2. 45メートル以上の介助歩行、歩行器の使用を含む
3. 歩行不能の場合、車椅子にて45メートル以上の操作可能		
4. 上記以外		
5. わからない		
g. 階段昇降	1. 自立、手すりなどの使用の有無は問わない	
	2. 介助または監視を要する	
	3. 不能	
	4. わからない	
h. 着替え	1. 自立、靴、ファスナー、装具の着脱を含む	
	2. 部分介助、標準的な時間内、半分以上は自分で行える	
	3. 上記以外	
	4. わからない	
i. 排便コントロール	1. 失禁なし、浣腸、坐薬の取り扱いも可能	
	2. ときに失禁あり、浣腸、坐薬の取り扱いに介助を要する者も含む	
	3. 上記以外	
	4. わからない	
j. 排尿コントロール	1. 失禁なし、収尿器の取り扱いも可能	
	2. ときに失禁あり、収尿器の取り扱いに介助を要する者も含む	
	3. 上記以外	
	4. わからない	

	k. 電話を使用する能力	1. 自分から電話をかける（電話帳を調べたり、ダイヤル番号を回すなど）
		2. 2, 3 のよく知っている番号をかける
		3. 電話に出るが自分からかけることはない
		4. 全く電話を使用しない
		5. わからない
	l. 買い物	1. 全ての買い物は自分で行う
		2. 小額の買い物は自分で行える
		3. 買い物に行くときはいつも付き添いが必要
		4. 全く買い物はできない
		5. わからない
	m. 食事の準備 (ご本人様が女性の場合のみご回答下さい)	1. 適切な食事を自分で計画し準備し給仕する
		2. 材料が供与されれば適切な食事を準備する
		3. 準備された食事を温めて給仕する、あるいは食事を準備するが適切な食事内容を維持しない
		4. 食事の準備と給仕をしてもらう必要がある
		5. わからない
	n. 家事 (ご本人様が女性の場合のみご回答下さい)	1. 家事を一人でこなす、あるいは時に手助けを要する(例: 重労働など)
		2. 皿洗いやベッドの支度などの日常的仕事はできる
		3. 簡単な日常的仕事はできるが、妥当な清潔さの基準を保てない
		4. 全ての家事に手助けを必要とする
		5. 全ての家事にかかわらない
		6. わからない
	o. 洗濯(ご本人様が女性の場合のみご回答下さい)	1. 自分の洗濯は完全に行う
		2. ソックス、靴下のゆすぎなど簡単な洗濯をする
		3. 全て他人にしてもらわなければならない
4. わからない		
p. 移送の形式	1. 自分で公的機関を利用して旅行したり自家用車を運転する	
	2. タクシーを利用して旅行するが、その他の公的輸送機関は利用しない	
	3. 付き添いがいたり皆と一緒に公的輸送機関で旅行する	
	4. 付き添いか皆と一緒に、タクシーか自家用車に限り旅行する	
	5. まったく旅行しない	
	6. わからない	

回答ID： -

	q. 自分の服薬管理	1. 正しいときに正しい量の薬を飲むことに責任が持てる
		2. あらかじめ薬が分けて準備されていれば飲むことができる
		3. 自分の薬を管理できない
		4. わからない
	r. 財産取り扱い能力	1. 経済的問題を自分で管理して（予算、小切手書き、掛金支払い、銀行へ行く）一連の収入を得て、維持する
		2. 日々の小銭は管理するが、預金や大金などでは手助けを必要とする
		3. 金銭の取り扱いができない
		4. わからない

回答2：ご本人の住まいに関して

C. 行方不明となった当時のご本人様の住まいに関して、できるだけ把握して記入して下さい。（行方不明が複数回ある場合には最後の回に関して記載してください）	
問7；行方不明当時、自宅、施設、病院のいずれにお住まいでしたか。	
a. 自宅に住んでいた (1か2に○)⇒ 問8へ	1. 一人暮らし 2. 同居者あり
b. 施設に入所していた (3～10のいずれかに○) ⇒ 次頁の問14へ	3. 認知症対応型グループホーム 4. 特別養護老人ホーム 5. 介護老人保健施設 6. 介護療養型医療施設 7. 老人ホーム（介護付有料、養護、軽費） 8. サービス付き高齢者向け住宅 9. その他施設（ ） 10. 入所していたが詳しくはわからない
c. 病院に入院していた (11～15のいずれかに○) ⇒ 次頁の問14へ	11. 一般病床 12. 精神病床 13. 療養病床 14. その他の病床 15. 入院していたが、詳しくはわからない
d. 住居がどこだったかは不明 (16に○)⇒ 次頁の問14へ	16. 住居地不明
問8；ご本人様は自宅にいつ頃から住んでいましたか	1. 認知症（疑いを含む）になる前から住んでいて、改築もしていない
	2. 認知症（疑いを含む）になる前から住んでいたが、改築した（詳細： ）
	3. 行方不明になる前に転居してきた（詳細： ）
	4. その他（ ） 5. わからない
問9；行方不明時の世帯の状況を教えて下さい（一人暮らしの場合も、家族・親族が定期的に来て介護をしていた場合は「5. その他の世帯」に具体的に記入ください）	1. 夫婦のみの世帯
	2. 夫婦と未婚の子のみの世帯
	3. ひとり親と未婚の子のみの世帯
	4. 三世代世帯
	5. その他の世帯（ ）
	6. わからない

回答 I D : —

問 18; ご本人様が行方不明になった当時の認知症の程度について、もっとも近いものを教えて下さい (認知症高齢者の日常生活自立度)	1. 自立 (認知症ではなかった)
	2. 何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している
	3. 日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
	4. 日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。
	5. 日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
	6. 著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする
	7. わからない
問 19; ご本人様が行方不明になった当時の身体状況について、もっとも近いものを教えて下さい (障害高齢者の日常生活自立度)	1. 自立
	2. 屋内での生活は概ね自立しているが、介助なしには外出しない
	3. 屋内での生活は何らかの介助を要し、日中もベッド上での生活が主体であるが、座位を保つ
	4. 1日中ベッド上で過ごし、排泄、食事、着替において介助を要する
	5. わからない

回答 3 : ご本人の医療・介護状況に関して (その 2)

F. 行方不明となった当時のご本人様の医療、介護に関して、できるだけ把握して記入して下さい。(行方不明が複数回ある場合には最後の回に関して記載してください)	
当時のご本人様が受けていた治療について、できるだけ把握して記入して下さい	
問 20; お薬による治療について教えて下さい (複数回答可)。また、行方不明になる前の 1ヶ月間に新しいお薬をもらったり、お薬の量などが変わったりしたことがありますか (複数回答可)	① 当時、飲んでいたお薬
	1. アリセプト (ジェネリック含む) 2. レミニール 3. リバスタッチ・イクセロンパッチ 4. メマリー 5. 向精神薬 6. 漢方薬 7. その他 8. 飲んでいなかった 9. わからない
	② 行方不明になる前の 1ヶ月間に、お薬に変化がありましたか
	1. 新しいお薬をもらった (お薬名あるいは病名) 2. お薬の量が変わった (変化の内容) 3. とくに変化はなかった 4. 飲んでいなかった 5. わからない
	薬物について特に記すべき事があれば、下に記入して下さい

回答ID： -

問21；お薬以外の治療について 教えてください 自由記載（リハビリなど）	
問22；当時、直前の1年間における入院に関して教えてください（複数回答可）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症の診断のために入院したことがあった 2. 認知症の治療のために入院したことがあった 3. 認知症以外の病気や怪我の治療のために入院したことがあった 4. 入院はしていなかった 5. 入院はしたが、詳しくはわからない 6. わからない <p>入院について特に記すべき事（回数や期間等）があれば、下に記入して下さい</p>

回答4：認知症の診断に関して

G. 認知症の診断に関して、できるだけ把握して記入して下さい。（行方不明が複数回ある場合には最後の回に関して記載してください）	
問23；行方が分からなくなった当時、認知症の診断、あるいは介護者によるその疑いがありましたか	<ol style="list-style-type: none"> 1. 疑いも診断もされていなかった 2. 疑いはあったが診断されていなかった 3. 診断されていた 4. わからない
問24；現在は、認知症と診断されていますか	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症と診断されていない 2. 他界している 3. わからない 4. 認知症と診断されている（診断日：平成 年 月頃） <p style="text-align: right;">問27に進んでください</p>
問25；診断は誰がしましたか	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神科医 2. 神経内科医 3. 老年科医 4. 上記1～3以外の認知症に関する専門的な医師 5. その他の医師 6. わからない
問26；診断名について	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症とだけ診断されている 2. アルツハイマー病 3. 脳血管性認知症 4. レビー小体型認知症 5. 前頭側頭型認知症 6. その他
問27；介護者が、認知症の疑いを持ったのはいつ頃ですか（⇒具体的な年齢も分かれば教えてください）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人前 2. 20歳代 3. 30歳代 4. 40歳代 5. 50歳代 6. 60歳代 7. 70歳代 8. 80歳代 9. 90歳代～ 10. わからない <p>⇒（ ）歳頃</p>

回答 I D : —

問 28 ; 介護者が、認知症の疑いをもってからご本人様が受診するまで、どのくらいでしたか	1. ~1年 2. 1~3年 3. 3~6年 4. 6~9年 5. 9~12年 6. 12~15年 7. 15年以上 8. 受診していない 9. わからない
H. 行方不明となった当時の医療機関の通院状況について、できるだけ記入して下さい	
問 29 ; 当時の医療機関への受診状況について	1. 当時通院していた 2. 当時往診を受けていた 3. 当時入院中であった 4. 受診歴はあったが中断していた 5. わからない
問 30 ; 当時の医療機関の診療科の詳細について (複数回答可)	1. 精神科 2. 神経内科 3. 老年科 4. 1~3以外の認知症を専門とする科 5. 1~4以外の科 6. わからない

問 31 ; 可能でしたら、当時の認知症 (疑いを含む) の程度に関して、下記の「FASTにおける特徴」と「臨床的特徴」をお読みの上、もっとも近い「番号 (1~7)」に○を付けて下さい。番号は次頁にもあります。

番号	FASTにおける特徴	臨床的特徴
1	主観的および客観的機能低下は認められない	5-10年前と比較して職業あるいは社会生活上、主観的および客観的にも変化は全く認められず支障を来すこともない。
2	物の置き忘れを訴える。喚語困難	名前や物の場所、約束を忘れていたりすることがあるが年齢相応の変化であり、親しい友人や同僚にも通常は気がつかれない。複雑な仕事を遂行したり、込み入った社会生活に適応していくうえで支障はない。多くの場合正常な老化以外の状態は認められない。
3	熟練を要する仕事の場面では機能低下が同僚によって認められる。新しい場所に旅行することは困難	初めて、重要な約束を忘れてしまうことがある。初めての土地への旅行のような複雑な作業を遂行する場合には機能低下が明らかになる。買い物や家計の管理あるいはよく知っている場所への旅行など日常行っている作業をするうえでは支障はない。熟練を要する職業や社会的活動から退職してしまうこともあるが、その後の日常生活の中では障害は明らかとはならず、臨床的には軽微である。
4	夕食に客を招く段取りをつけたり、家計を管理したり、買い物をしたりする程度の仕事でも支障を来す。	買い物で必要なものを必要な量だけ買うことができない。誰かがついていないと買い物の勘定を正しく払うことができない。自分で洋服を選んで着たり、入浴したり、行き慣れている所へ行ったりすることには支障はないために日常生活では介助を要しないが、社会生活では支障を来すことがある。単身でアパート生活している老人の場合、家賃の額で大家とトラブルを起こすようなことがある。
5	介助なしでは適切な洋服を選んで着ることができない、入浴させるときにもなんとかなだめすかして説得することが必要なこともある。	家庭での日常生活でも自立できない。買い物をひとりですることはできない。季節にあった洋服を選んだりすることができないために介助が必要となる。明らかに釣り合いがとれていない組合せで服を着たりし、適切に洋服を選べない。毎日の入浴を忘れることもある。なだめすかして入浴させなければならぬにしても、自分で体をきちんと洗うことはできるし、お湯の調節もできる。自動車を適切かつ安全に運転できなくなり、不適切にスピードを上げたり下げたり、また信号を無視したりする。無事故だった人が初めて事故を起こすこともある。きちんと服が揃えてあれば適切に着ることはできる。大声をあげたりするような感情障害や多動、睡眠障害によって家庭で不適応を起こし医師による治療的かかわりがしばしば必要になる。

6	(a). 不適切な着衣	寝巻の上に普段着を重ねて着てしまう。靴紐が結べなかったり、ボタンを掛けられなかったり、ネクタイをきちんと結べなかったり、左右間違えずに靴をはけなかったりする。着衣も介助が必要になる。
	(b). 入浴に介助を要す。 入浴を嫌がる	お湯の温度や量を調節できなくなり、体もうまく洗えなくなる。浴槽に入ったり出たりすることもできにくくなり、風呂から出た後もきちんと体を拭くことができない。このような障害に先行して風呂に入りたがらない、嫌がるという行動がみられることもある。
	(c). トイレの水を流せなくなる	用を済ませた後水を流すのを忘れたり、きちんと拭くのを忘れる。あるいは済ませた後服をきちんと直せなかったりする。
	(d). 尿失禁	時に (c) の段階と同時に起こるが、これらの段階の間には数ヶ月間の間隔があることが多い。この時期に起こる尿失禁は尿路感染やほかの生殖泌尿器系の障害がよく起こる。この時期の尿失禁は適切な排泄行動を行ううでの認知機能の低下によって起こる。
	(e). 便失禁	この時期の障害は (c) や (d) の段階でみられることもあるが、通常は一時的にしろ別々にみられることが多い。焦燥や明らかな精神病様症状のために医療施設を受診することも多い。攻撃的行為や失禁のために施設入所が考慮されることが多い。
7	(a). 最大限約 6 語に限定された言語機能の低下	語彙と言語能力の貧困化はアルツハイマー型認知症の特徴であるが、発語量の減少と話し言葉のとぎれがしばしば認められる。更に進行すると完全な文章を話す能力は次第に失われる。失禁がみられるようになると、話し言葉は幾つかの単語あるいは短い文節に限られ、語彙は 2、3 の単語のみに限られてしまう。
	(b). 理解し得る語彙はただ 1 つの単語となる	最後に残される単語には個人差があり、ある患者では はい という言葉が肯定と否定の両方の意志を示すときもあり、逆に いいえ という返事が両方の意味をもつこともある。病期が進行するに従ってこのようなただ 1 つの言葉も失われてしまう。一見、言葉が完全に失われてしまったと思われてから数ヶ月後に突然最後に残されていた単語を一時的に発語することがあるが、理解し得る話し言葉が失われた後は叫び声や意味不明のぶつぶつ言う声のみとなる。
	(c). 歩行能力の喪失	歩行障害が出現する。ゆっくりとした小刻みの歩行となり階段の上り下りに介助を要するようになる。歩行できなくなる時期は個人差はあるが、次第に歩行がゆっくりとなり、歩幅が小さくなっていく場合もあり、歩くときに前方あるいは後方や側方に傾いたりする。寝たきりとなって数ヶ月すると拘縮が出現する。
	(d). 着座能力の喪失	寝たきり状態であってもはじめのうち介助なしで椅子に座っていることは可能である。しかし、次第に介助なしで椅子に座っていることもできなくなる。この時期ではまだ笑ったり、囁んだり、握ることはできる。
	(e). 笑う能力の喪失	この時期では刺激に対して眼球をゆっくり動かすことは可能である。多くの患者では把握反射は嚥下運動とともに保たれる。
	(f). 昏迷および昏睡	アルツハイマー型認知症の末期ともいえるこの時期は本疾患に付随する代謝機能の低下と関連する。

回答ID : -

回答5：行方不明の状況に関して（その1）

I. 行方不明となった当時のご本人様の状況に関して、できるだけ把握して記入して下さい。	
いわゆる徘徊のエピソードについて	
問32；徘徊が始まったのは、介護者が認知症の疑いを持ってから何年位ですか	1. ~3年 2. 3~6年 3. 6~9年 4. 9~12年 5. 12~15年 6. 15年~ 7. わからない
問33；これまでに行方不明になった回数、1年間の平均回数を教えてください	1. 1回 2. 2回 3. 3回 4. 4~10回 5. 11~20回 6. 21回以上 7. わからない
	平均（ ）回/年
	当時の徘徊について特に記すべき事（頻度や期間等）があれば記載して下さい
今回の行方不明の当時の状況について（行方不明が複数回ある場合には最後の回に関して記載して下さい）	
問34；季節はいつですか	1. 春 2. 夏 3. 秋 4. 冬 5. わからない
問35；時間帯はいつですか	1. 0~4時 2. 4~8時 3. 8~12時 4. 12~16時 5. 16~20時 6. 20~24時 7. わからない
問36；当時、どなたが介護をしていましたか（複数回答可）	1. 配偶者 2. 子 3. 親 4. その他親族 5. ケアサービス従事者 6. その他（下に記載して下さい） 7. わからない
	介護者について特に記すべき事（介護負担が大きかった、交代で行っていた、ご本人が独りだけで過ごす時間帯があったなど）があれば以下に記載して下さい
問37；介護者のうち、どなたかは、行方不明となる危険を感じていましたか	1. 感じていた 2. 感じていなかった 3. わからない
	危険の認識について特記事項（誰が、どのような点でなど）があれば以下に記載して下さい